



ひ え だ か ず ほ  
稗 田 一 穂 氏

生年月日 大正 9 年 8 月 23 日生

住 所 東京都世田谷区

大正 9 年 (1920 年) 8 月 23 日、西牟婁郡田辺町 (現田辺市新屋敷町) に生まれる。現代日本画壇における創造美術、新制作協会日本画部、創画会と続く大きな流れの中で活躍されている屈指の作家である。

「幼い頃から画家になりたくて、いつの間にか年月が経ち描き続けてきましたが、その時々が精いっぱい、思いつくまま後先を慎重に考えてもみない、貧しい作品の数々を重ねてきたと思います。(中略) 戦後の日本画の危機が叫ばれた時代に私は育ちました。今の周囲はそのような雰囲気ではありませんが、私にはあの頃と少しも変わっていないように思えます。迷いながらこれからも道は続くと思いますが、切実な危機感を心に抱きながら奥深いものを求めて精進したいと思います。」

昭和 59 年 (1984 年) 11 月の朝日新聞社主催稗田一穂展での氏の挨拶の一部である。謙辞の中にも作家としての心意気がうかがえる。

東京美術学校在学中から大日本海洋美術展、大日本美術院展をはじめ各展覧会で活躍、東京美術学校の卒業制作展では「午後」を出品、川端奨学賞を受ける。

戦後、昭和 21 年 (1946 年) の第 1 回日本美術展覧会 (以下、「日展」) に「東北の秋」、同 22 年 (1947 年) の第 3 回日展に「羽黒の御搭」を出品し、それ以来、創造美術展、新制作協会展、選抜秀作美術展、日本国際美術展、現代日本美術展、凡樹画社展、野火会展、樗会日本画展、朴花社展、朱門会日本画展、降鼎会日本画展、潮音会展、遊星展、創画展、日本六月の会展、日本秀作美術展、桐葉会展、拾彩展等々、それぞれ数次にわたる展覧会その他への出品は数知れず、個展、二人展など複数の画家展を含めて枚挙にいとまがなく、また海外展にも多く出品し、それぞれ絶賛、好評を博することの連続である。

さらに、昭和 42 年 (1967 年) には、法隆寺金堂壁画再現模写の開始にあたって、その一員として五号壁 (半跏形菩薩像)、七号壁 (聖観音菩薩像) の模写を行う。

氏は、田辺市に生まれ、しばらくして大阪市に住むことになるが、少年期の夏休みには、祖母のいる田辺に帰り、その海岸等の美しさをふんだんに味わったようであり、また、那智の滝の威容に強い印象を受けたという。そんな画伯の中に生まれた、その繊細で、鋭敏な美感覚、デザインの構成力、ユニークな詩的感覚、異色ある芸術感覚が作品に余すところなく表わされ、稗田芸術の内容形式が現代日本画界における位置を揺るぎないものとしている。

代表作に、「魚の群れ」「奇異鳥」「流翳」「流淵」「流紋」「花精」「霧を渡る蝶」「春

## 第 16 回 (昭和 60 年)

野」「朧春」「海の詩」「幻想那智」「夏去る」「帰り路」「孔雀と女」「雪止む」その他多数の作品がある。

なお、昭和 59 年 (1984 年) 6 月開館した紀南文化会館の緞帳の原画「海の音」も氏の作品であり、氏から寄贈を受けたものである。

### (略 歴)

昭和 18 年 (1943 年) 9 月	東京美術学校日本画科卒業、川端奨学賞受賞
昭和 18 年 (1943 年) 10 月	大阪市立工芸学校嘱託教員
昭和 19 年 (1944 年) 5 月	上野美術研究所 (現東京国立文化財研究所) 嘱託
昭和 41 年 (1966 年) 4 月	東京芸術大学美術学部日本画科非常勤講師
昭和 41 年 (1966 年) 11 月	法隆寺金堂壁画再現事業に参画、五号壁 (半跏形菩薩像)、七号壁 (聖観音菩薩像) を模写
昭和 45 年 (1970 年) 1 月	東京芸術大学美術学部日本画科助教授
昭和 45 年 (1970 年) 11 月	和歌山県美術展特別展に出展
昭和 47 年 (1972 年) 4 月	東京芸術大学美術学部日本画科教授 教科用図書検定調査審議会委員
昭和 49 年 (1974 年) 5 月	創画会結成、同会員となる
昭和 52 年 (1977 年) 7 月	大学設置審議会専門委員
昭和 53 年 (1978 年) 11 月	教科用図書検定調査審議会委員に再任
昭和 55 年 (1980 年) 11 月	教科用図書検定調査審議会委員に再任
昭和 57 年 (1982 年) 11 月	教科用図書検定調査審議会委員に再任
昭和 59 年 (1984 年) 4 月	紀南文化会館大ホール緞帳「海の音」制作、原画を田辺市に贈る
昭和 59 年 (1984 年) 11 月	教科用図書検定調査審議会委員に再任

### (受賞歴等)

昭和 23 年 (1948 年) 9 月	第 1 回創造美術展で奨励賞受賞
昭和 24 年 (1949 年) 9 月	第 2 回創造美術展で奨励賞受賞
昭和 25 年 (1950 年) 5 月	創造美術準会員に推挙される
昭和 26 年 (1951 年) 9 月	新制作協会会員に推挙される
昭和 53 年 (1978 年) 10 月	第 2 回長谷川仁記念賞受賞